第19期(2014年3月期)
決算説明会

トレックス・セミコンダクター株式会社

1 会社概要
事業内容
電源ICへの想い
主力製品群
特徴
提供価値

2 市場動向
アナログ半導体市場規模
アナログ電源IC市場規模
当社の位置付け
競合動向

3 第19期の業績
（2014年3月期）
これまでの業績
売上推移
営業利益推移
利益改善要因
業績進捗

4 今後の展望
中期経営目標
ターゲットアプリケーション
新製品開発計画
開発力強化方針
販売力強化方針

5 還元方針
基本方針
配当額と配当性向

1 会社概要
事業内容
電源ICへの想い
主力製品群
特徴
提供価値

2 市場動向
アナログ半導体市場規模
アナログ電源IC市場規模
当社の位置付け
競合動向

3 第19期の業績
（2014年3月期）
これまでの業績
売上推移
営業利益推移
利益改善要因
業績進捗

4 今後の展望
中期経営目標
ターゲットアプリケーション
新製品開発計画
開発力強化方針
販売力強化方針

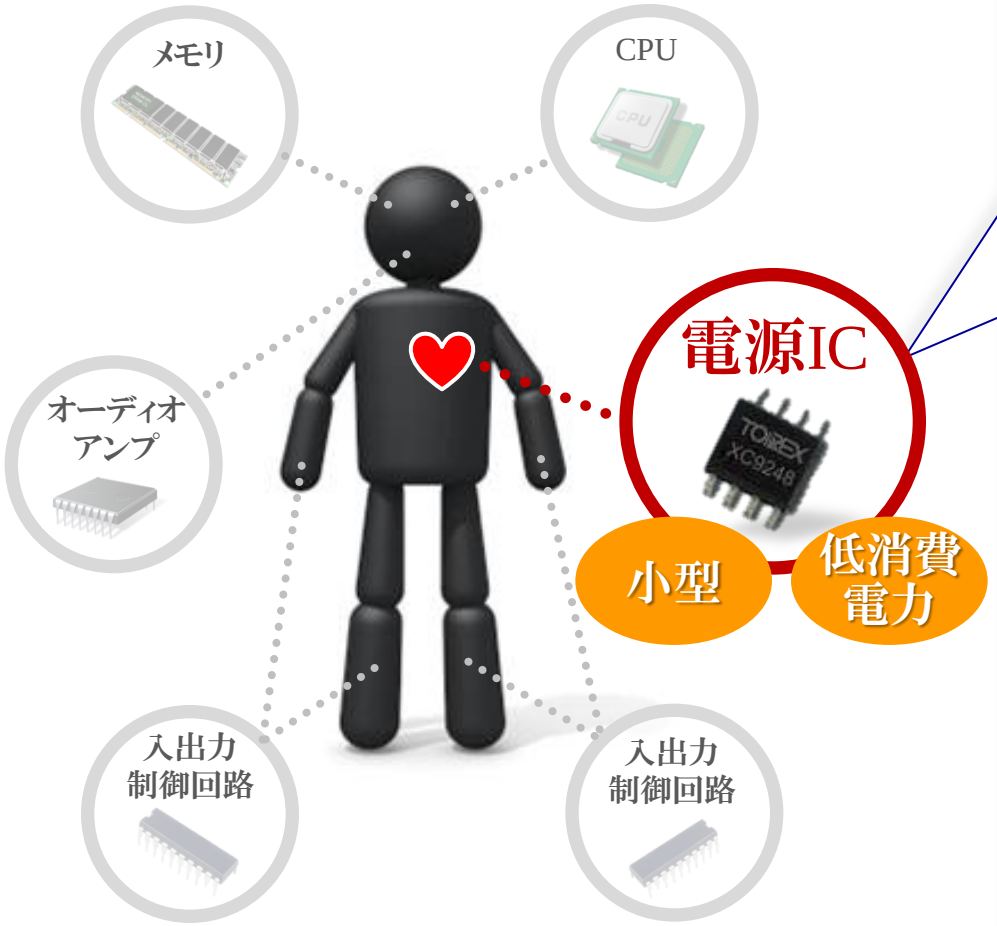
5 還元方針
基本方針
配当額と配当性向

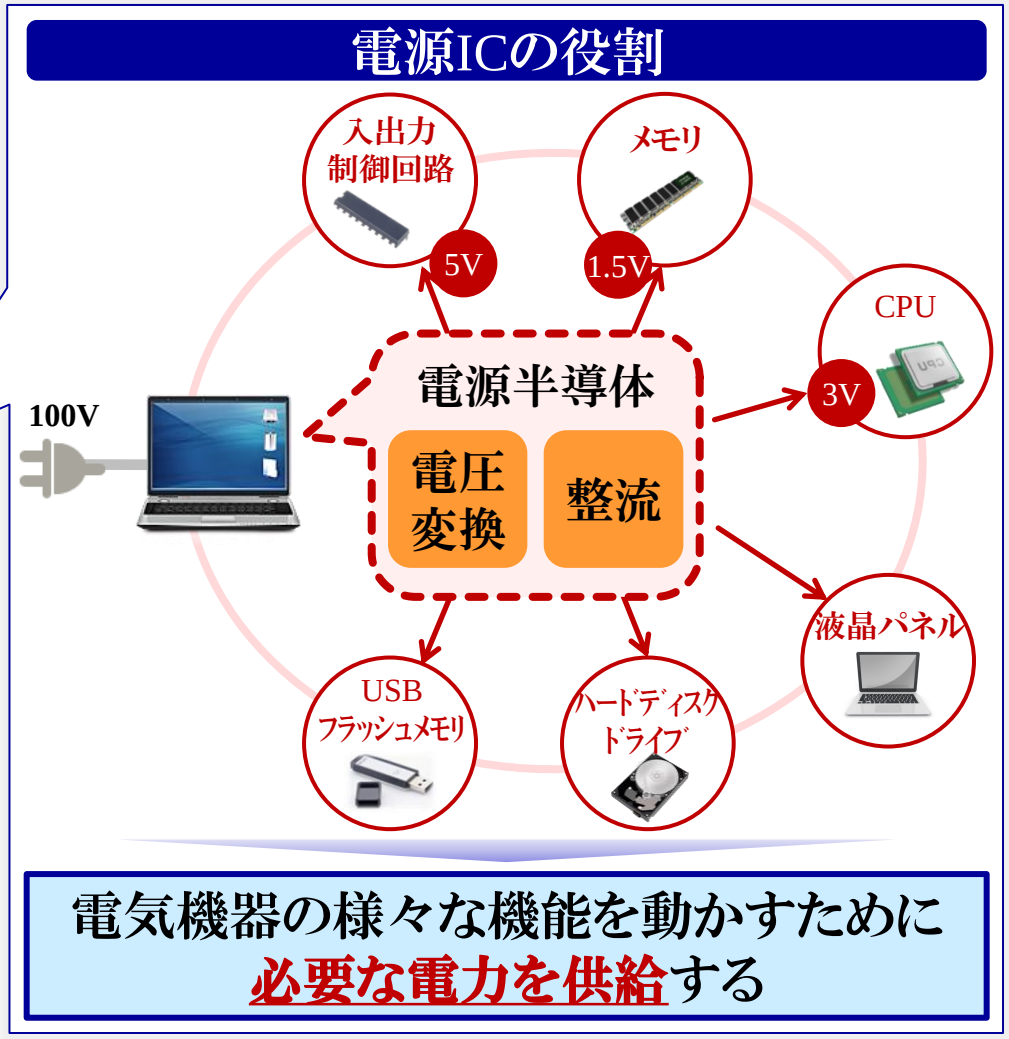
TOREXは何をやっている会社なのか？

事業内容

電気機器の「心臓」の役割を担う、小型・低消費電力（業界トップクラス）の電源ICを開発・販売しています。

半導体の種類（例）





なぜ電源ICなのか？

電源ICへの想い

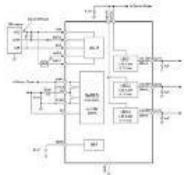
電気機器の小型化・省電力化に“電源”という観点から貢献することで企業理念の体現を目指しています。

理念

豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献

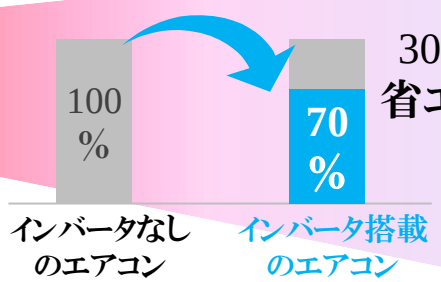
回路設計

部品配置最適化
回路構成をシンプルに



省電力化

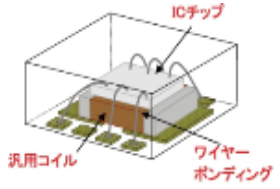
エアコンの消費電力量



【出典】ダイキンHPより

パッケージ

部品を集約
放熱性能を向上



小型化

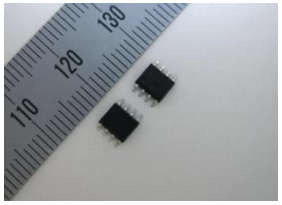
機器の小型化

具体的にどんな製品なのか？

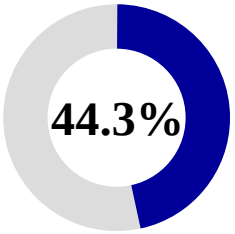
主力製品群

VR、DC/DC、VDが当社の主力製品です。

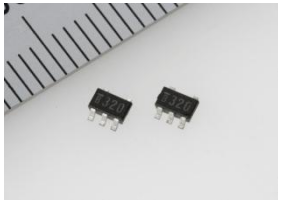
VR



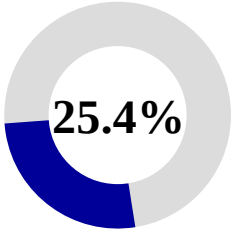
Voltage Regulatorの略（電圧レギュレータ）
入力電圧を希望の出力電圧に変換



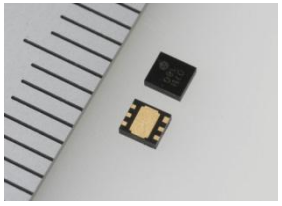
DC/DC



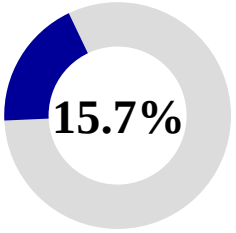
DC/DC Converterの略
出力電圧が常に一定となるように制御



VD



Voltage Detectorの略（電圧検出器）
入力電圧を常に監視
設定電圧以下となった時にアラームを出す



TOREXの特徴は？

特徴①：安定成長企業

着実に一つ一つの商談を積み重ね、堅実に成長していく企業です。

世界はアナログでできている

身の回りの光・音・電気は全てアナログ
全ての機器でアナログ処理が必要

電子化の進展

機器の高性能化に伴う電子化が進展
必要となる電源ICの種類・数も増大

一つ一つの商談の積み重ね

ライフサイクルは長いもので20年以上
一つ一つの商談が安定売上を創り出す

堅実な成長の実現

不採算取引の見直しと、高付加価値
領域へのシフトで収益を安定化

特徴②:プロフェッショナル集団

開発、販売にアナログ技術のプロフェッショナル集団を有しています。

回路設計に踏み込んだ提案

開発-FAE(*1)による営業サポートの下、
アナログ電源を知り尽くした営業集団が
ソリューションとしての製品提案を実施しています

(*1)Field Application Engineer(技術営業)

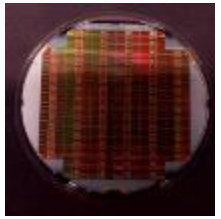
開発 | 製造 | 検査・物流 | 販売 | サービス

アナログ電源IC設計に特化

1995年の創業から、アナログ電源ICという
一つの分野を突き詰めてきたことで、
高い専門性を有しています

特徴③:ファブレス

前工程をファブレスとすることで、経営環境の変化に対する柔軟性を確保しています。

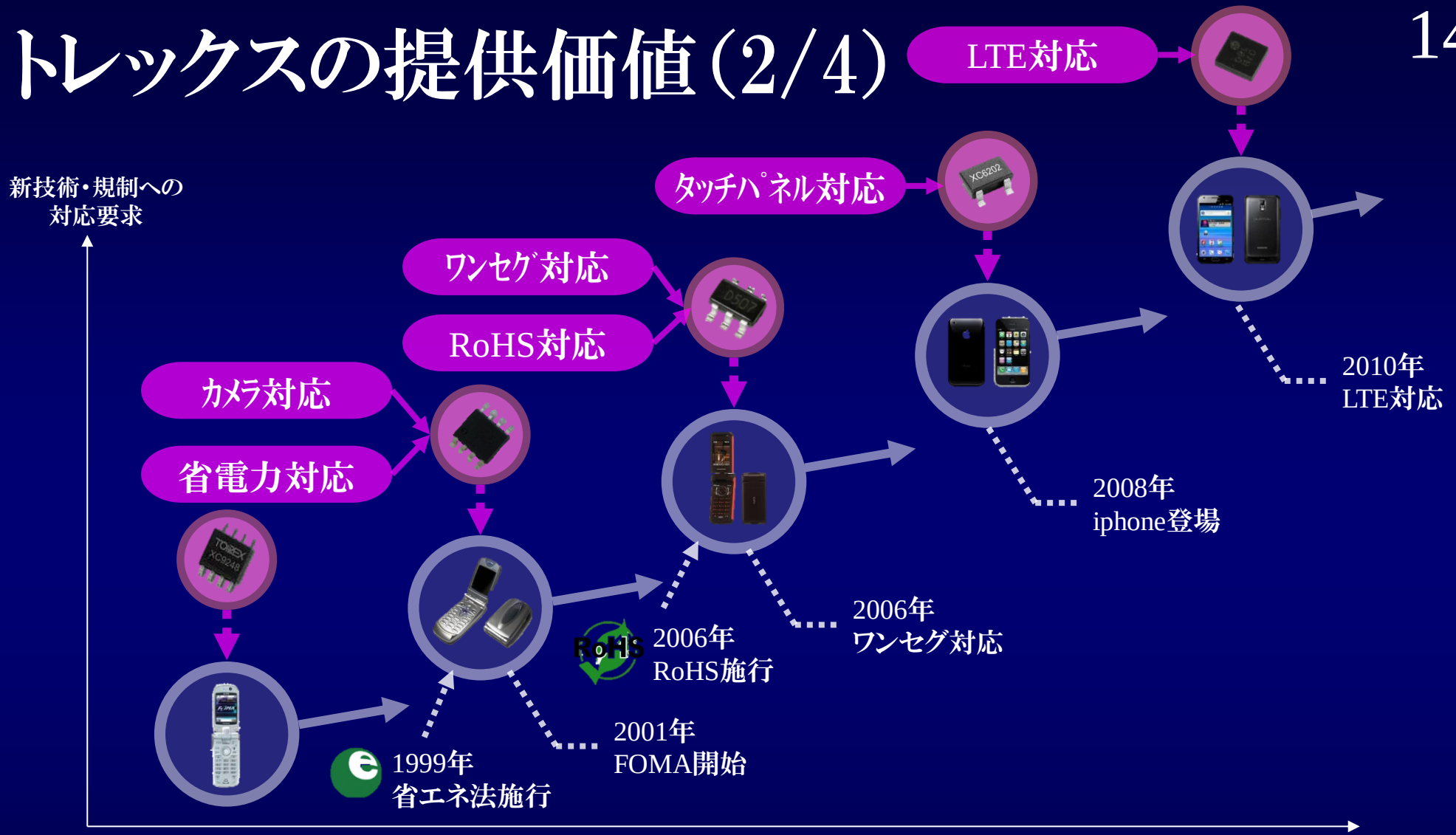
	概要	選択肢	Quality	Cost		Delivery		狙い
			品質	原価	投資額	納期	新技術対応期間	
前工程	 シリコン基板に回路を作り込む	自社所有	○	△	×	○	×	多額の設備投資等、柔軟な意思決定の阻害要因を排除
		ファブレス	△	○	○	△	○	
後工程	作り込まれた回路をﾊﾟｯｹｰｼﾞに封入	自社所有	○	△	△	○	○	
		ファブレス	△	○	○	△	△	

当社の選択

トレックスの提供価値(1/4)

電気機器の電源回路設計の難易度が高いため、
電源半導体は長期間使われ続ける傾向があります。

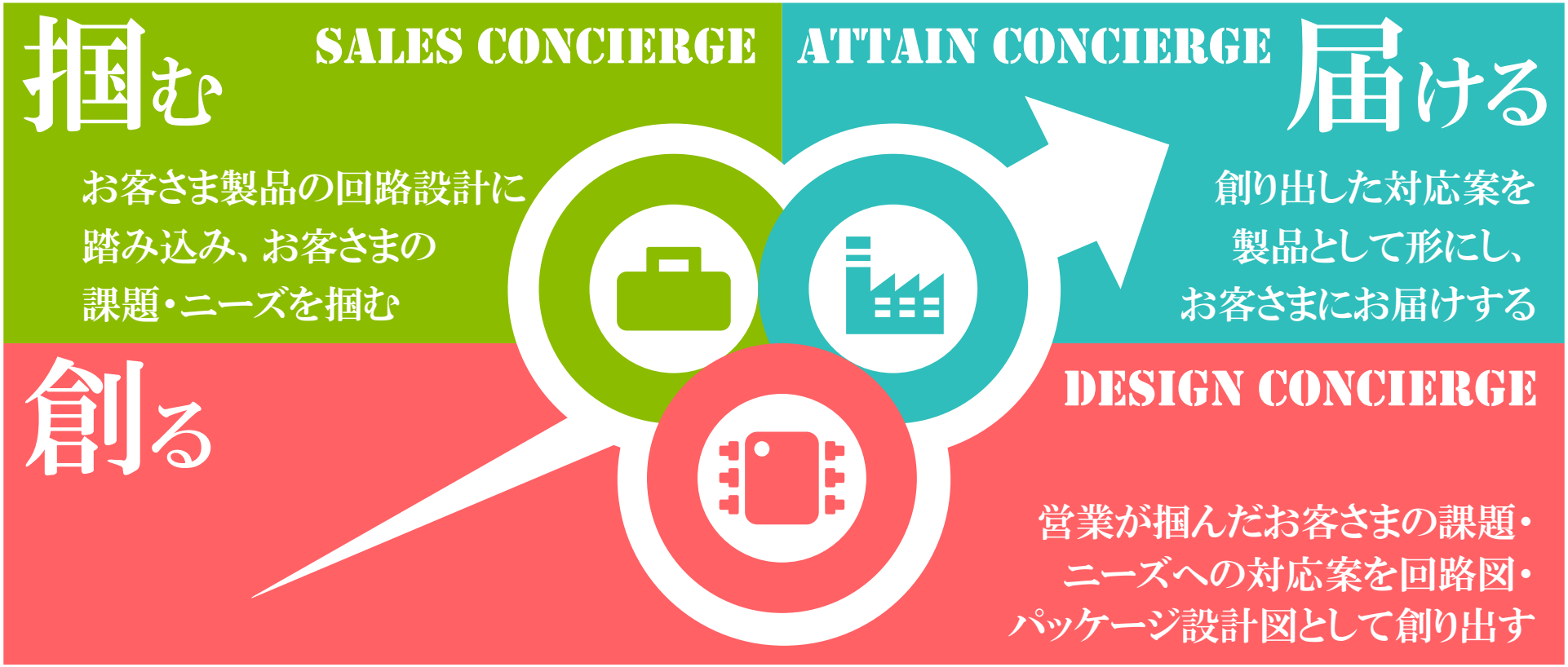
トレックスの提供価値(2/4)



様々な業界では、新技術・規制対応要求の増大に伴い
電源回路設計の変更を余儀なくされています。

トレックスの提供価値(3/4)

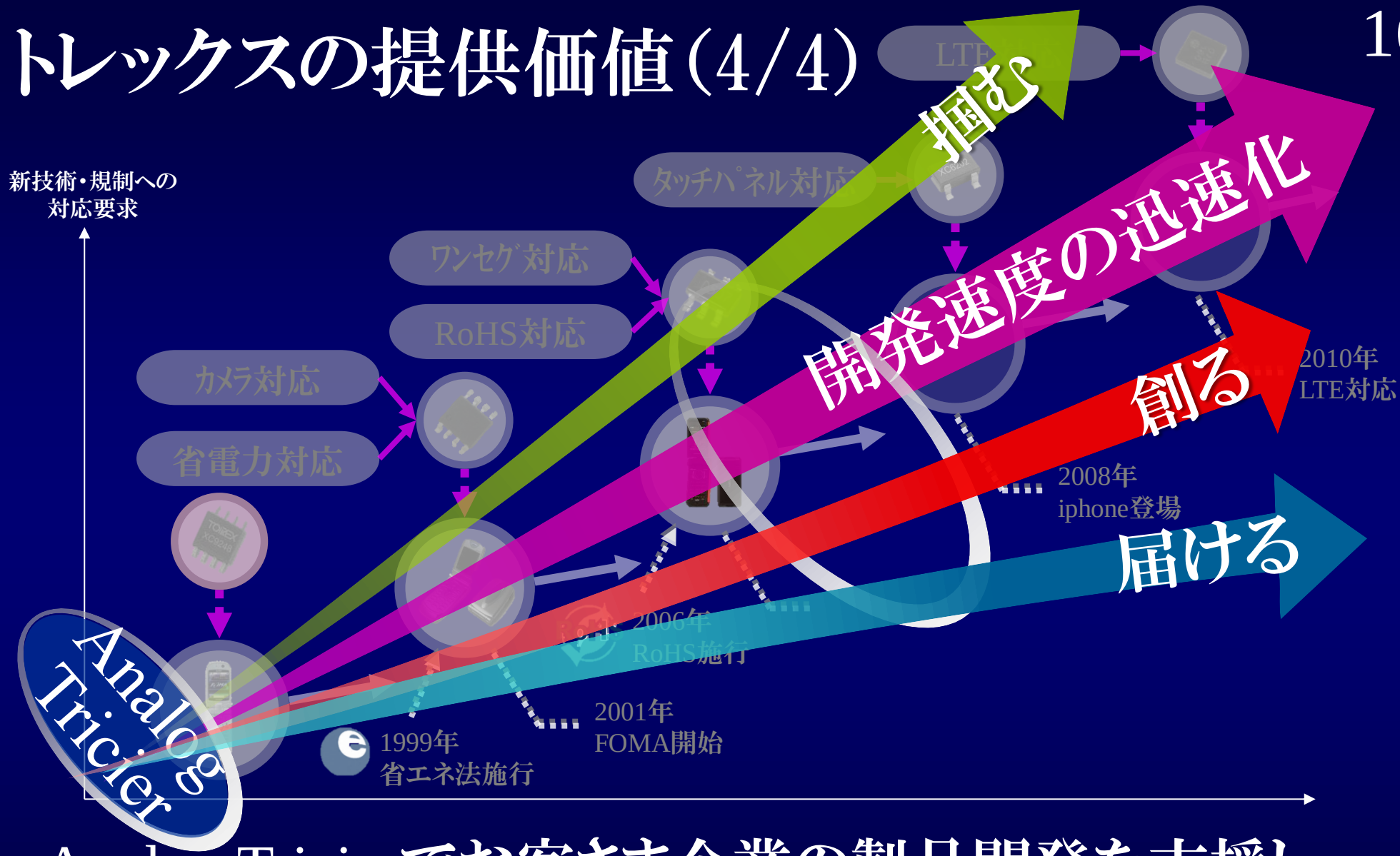
当社は、営業・開発・製造が三位一体となったソリューションサービス
Analog Tricier(アナログ・トリシェル)を提供しています。



3つの(Triple)コンシェル
(ConcierGe)が一体となったサービス

Analog Tricier

トレックスの提供価値(4/4)



Analog Tricierでお客さま企業の製品開発を支援し、
お客さま企業の開発速度の迅速化に貢献します。

1 会社概要
事業内容
電源ICへの想い
主力製品群
特徴
提供価値

2 市場動向
アナログ半導体市場規模
アナログ電源IC市場規模
当社の位置付け
競合動向

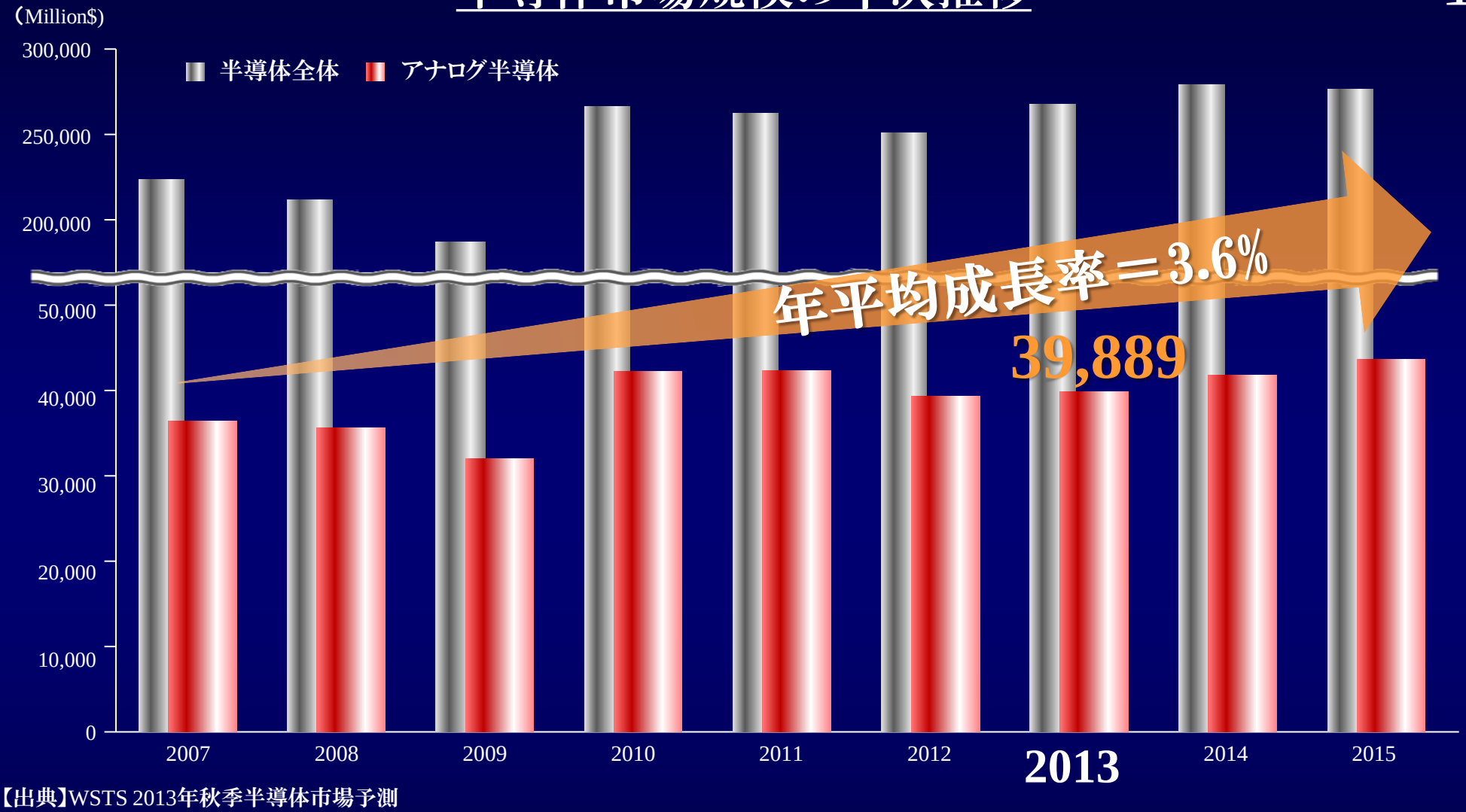
3 第19期の業績
（2014年3月期）
これまでの業績
売上推移
営業利益推移
利益改善要因
業績進捗

4 今後の展望
中期経営目標
ターゲットアプリケーション
新製品開発計画
開発力強化方針
販売力強化方針

5 還元方針
基本方針
配当額と配当性向

市場はどうなる？

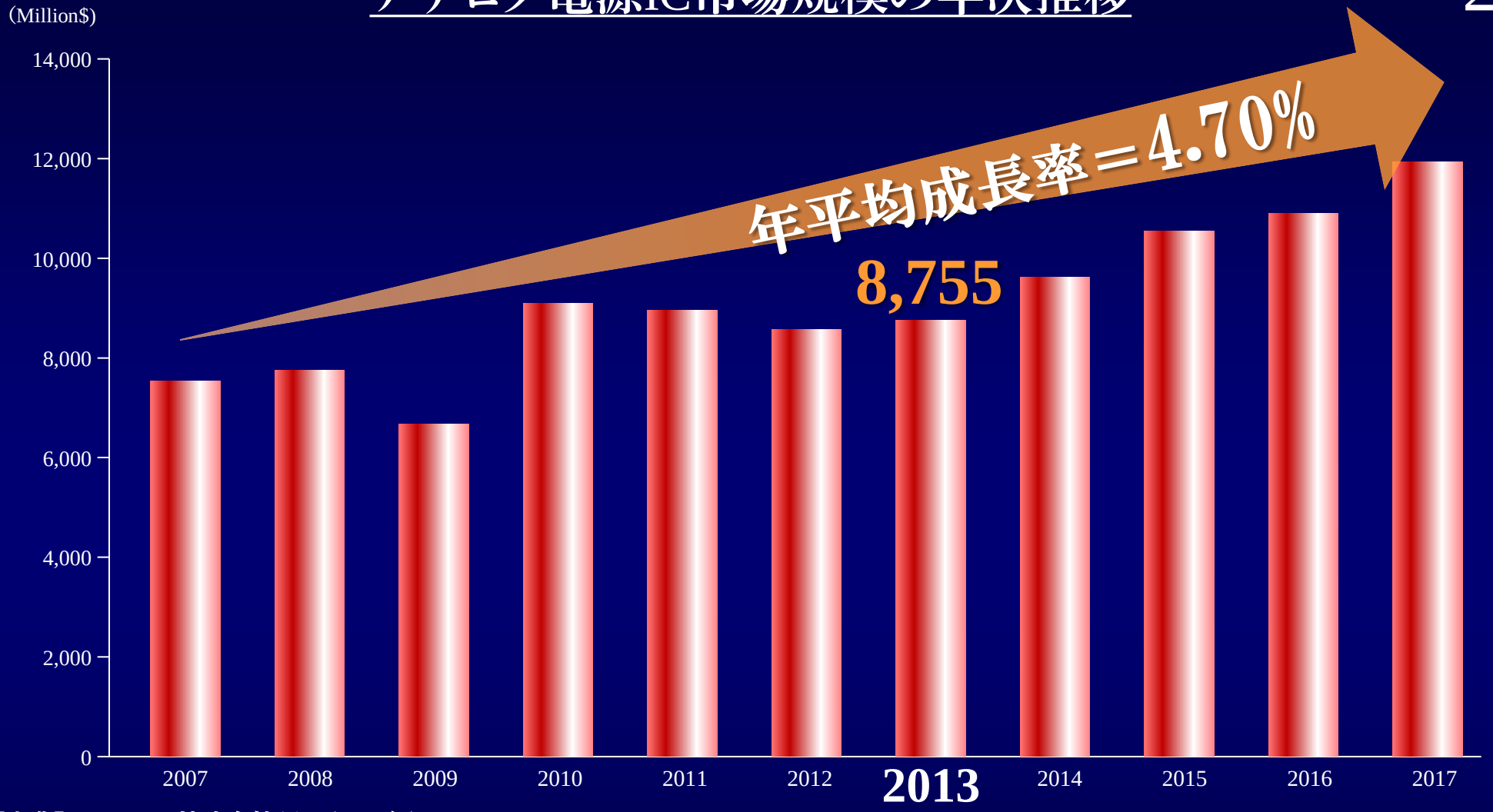
半導体市場規模の年次推移



【出典】WSTS 2013年秋季半導体市場予測

アナログ半導体は4兆円市場(2013年時点)で、
現在も拡大基調にあります。

アナログ電源IC市場規模の年次推移

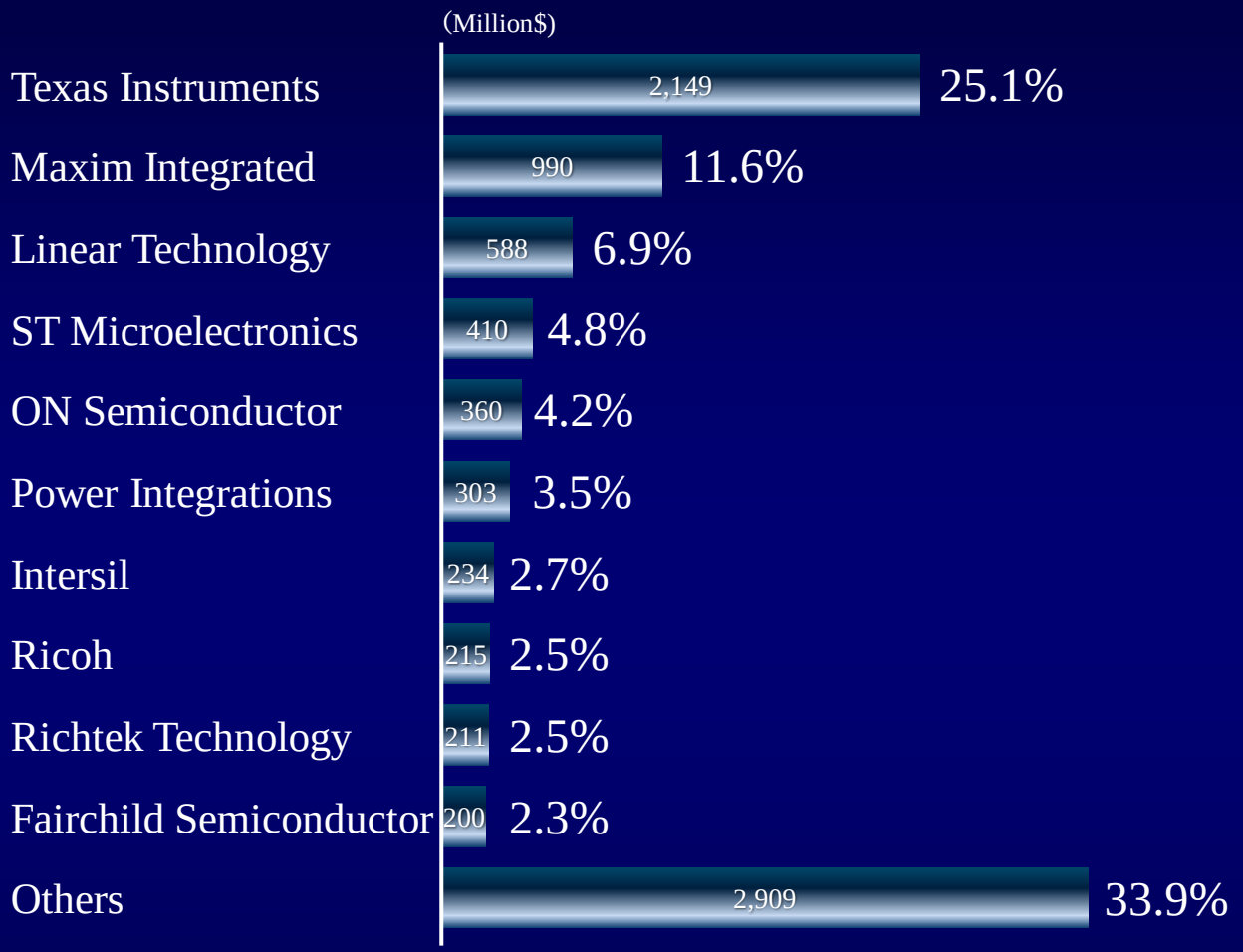


【出典】IHS Global株式会社調べ(2013年)

アナログ電源ICは、半導体全体の中でも成長率の高い

8,700億円市場(2013年時点)です。

市場における当社の位置付け



【出典】IHS Global株式会社調べ（2013年）

他寡占市場等と比較して、絶対的な強者は存在せず
市場占有率拡大の余地は大きいと考えています。

競合動向

(*1)アナログ売上高はGartnerより（2012年暦年ベース）
(*2)アナログ比率は(*1)算出時点での決算データを使用

	売上高	営業利益	アナログ売上高(*1)	アナログ比率(*2)	売上高営業利益率
当社	**93.9 億円**	**14.1 億円**	**93.9 億円**	**100.0%**	**15.1%**
Texas Instruments	12,205 M$	2,984 M$	4,250 M$	34.8%	24.4%
Analog Devices	2,634 M$	783 M$	2,049 M$	**77.8%**	**29.7%**
Maxim	2,441 M$	616 M$	1,638 M$	**67.1%**	**25.2%**
Linear Technology	1,282 M$	573 M$	1,213 M$	**94.6%**	**44.7%**
ON Semiconductor	2,783 M$	251 M$	715 M$	25.7%	9.0%
STMicroelectronics	8,050 M$	△705 M$	556 M$	6.9%	△8.8%
Richtek Technology	372 M$	71 M$	372 M$	**100.0%**	**19.1%**

アナログ比率の高い海外競合は高収益を達成しています。

1 会社概要
事業内容
電源ICへの想い
主力製品群
特徴
提供価値

2 市場動向
アナログ半導体市場規模
アナログ電源IC市場規模
当社の位置付け
競合動向

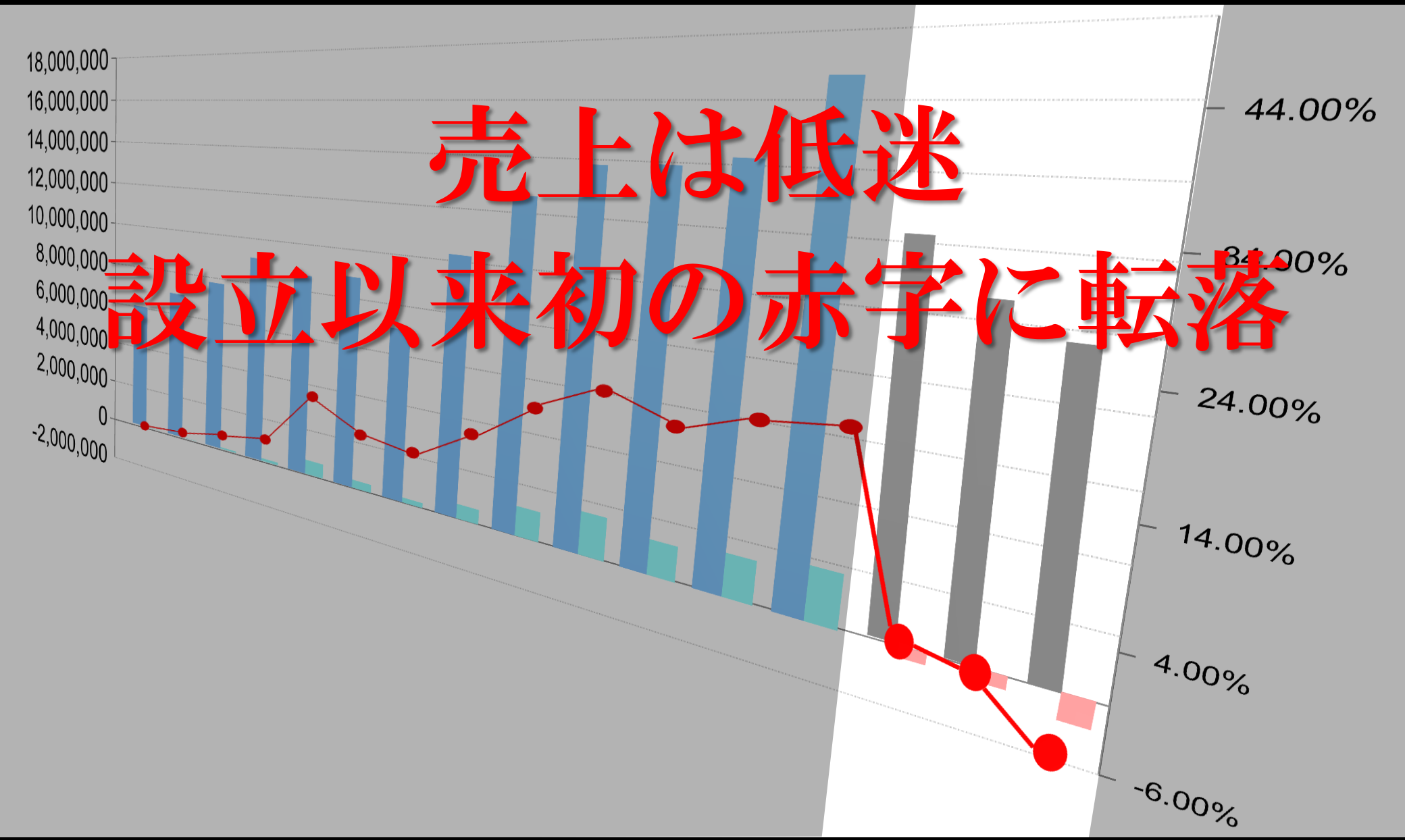
3 第19期の業績
（2014年3月期）
これまでの業績
売上推移
営業利益推移
利益改善要因
業績進捗

4 今後の展望
中期経営目標
ターゲットアプリケーション
新製品開発計画
開発力強化方針
販売力強化方針

5 還元方針
基本方針
配当額と配当性向

これまでの業績は？

売上・営業利益の推移（1995年～2010年）



窮地に立たされたトレックス

トレックスの窮状を
打破すべく

男達が
立ち上がった

代表取締役社長

藤阪　知之

常務取締役

芝宮　孝司

常務取締役

木村　浩

V-Plan発動

窮地に陥ったTOREXの現状を打破すべく
改めて、TOREXの強みは何か、
他社の模倣困難な独自資源は何か、
収益回復までの道のり、
今を乗り越えた先に見据える目標地点…
等々が議論された

培ってきた知識・経験を総動員させての
議論は連日深夜まで行われた

注力製品分野のシフト

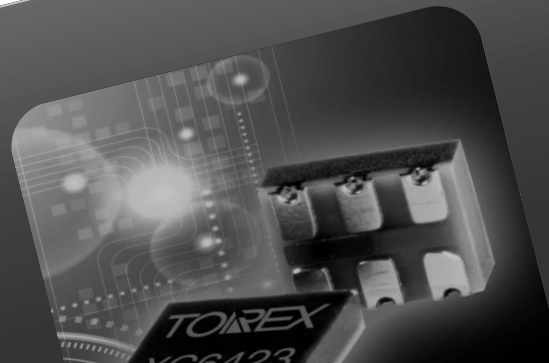
利益率の改善、売上の安定化を実現すべく、
民生機器から車載機器・産業機器分野へ経営資源をシフト
新分野攻略製品の開発を早急に推進

Tomoyuki Fujisaka

Koji Shibamiya

開発・営業体制の変革

TOREXのアナログ技術は世界でもトップクラス！
また、お客さまの回路設計まで踏み込んで提案できる営業体制は、
日本国内において海外メーカーにはないTOREXの大きな強み
我々の強みをお客さまに見えるカタチで提供できる仕組みの構築が必要



新規市場の開拓

目線の転換。

注力製品分野のシフトに合わせ、
これまで以上にお客さま目線での
製品開発、営業展開が必要
また、今後の大きな成長が期待される
センサー製品の市場投入を早急に進める必要がある

Hiroshi Kimura

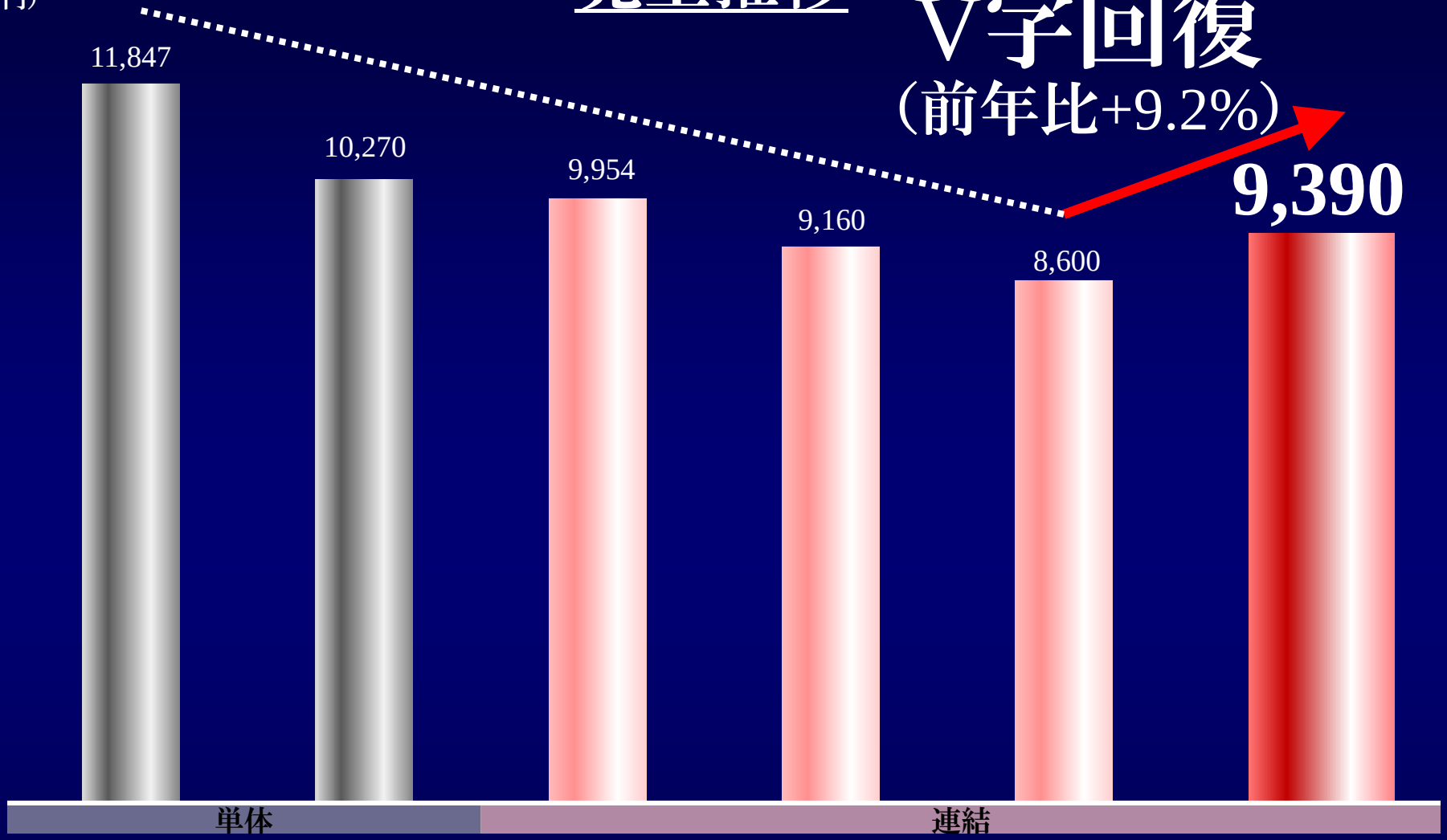
こうして練り上げられた
V-Plan（中期経営計画）に基づき、
注力製品分野のシフト、
BU（Business Unit）制への移行、
付加価値向上推進策の実現等が進められていった

設立以来の難局を乗り切るために
社員一人一人が力を合わせて業務に励み、
TOREXは業績回復の道のりを確かに歩んでいった

業績はどう変わったか？

売上推移

（百万円）

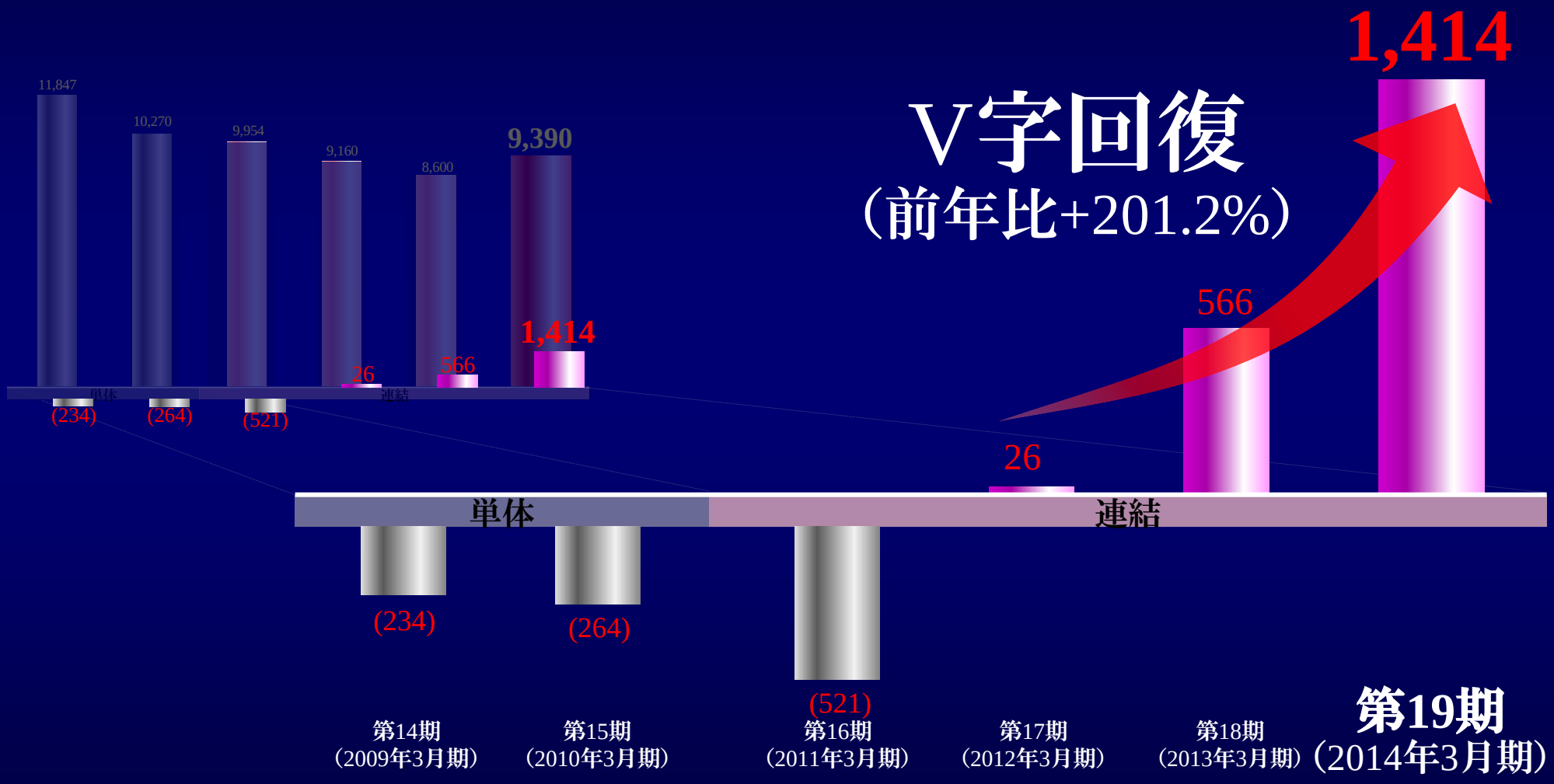


V字回復
（前年比+9.2%）

前年比+9.2%のV字回復を達成しました。

営業利益推移

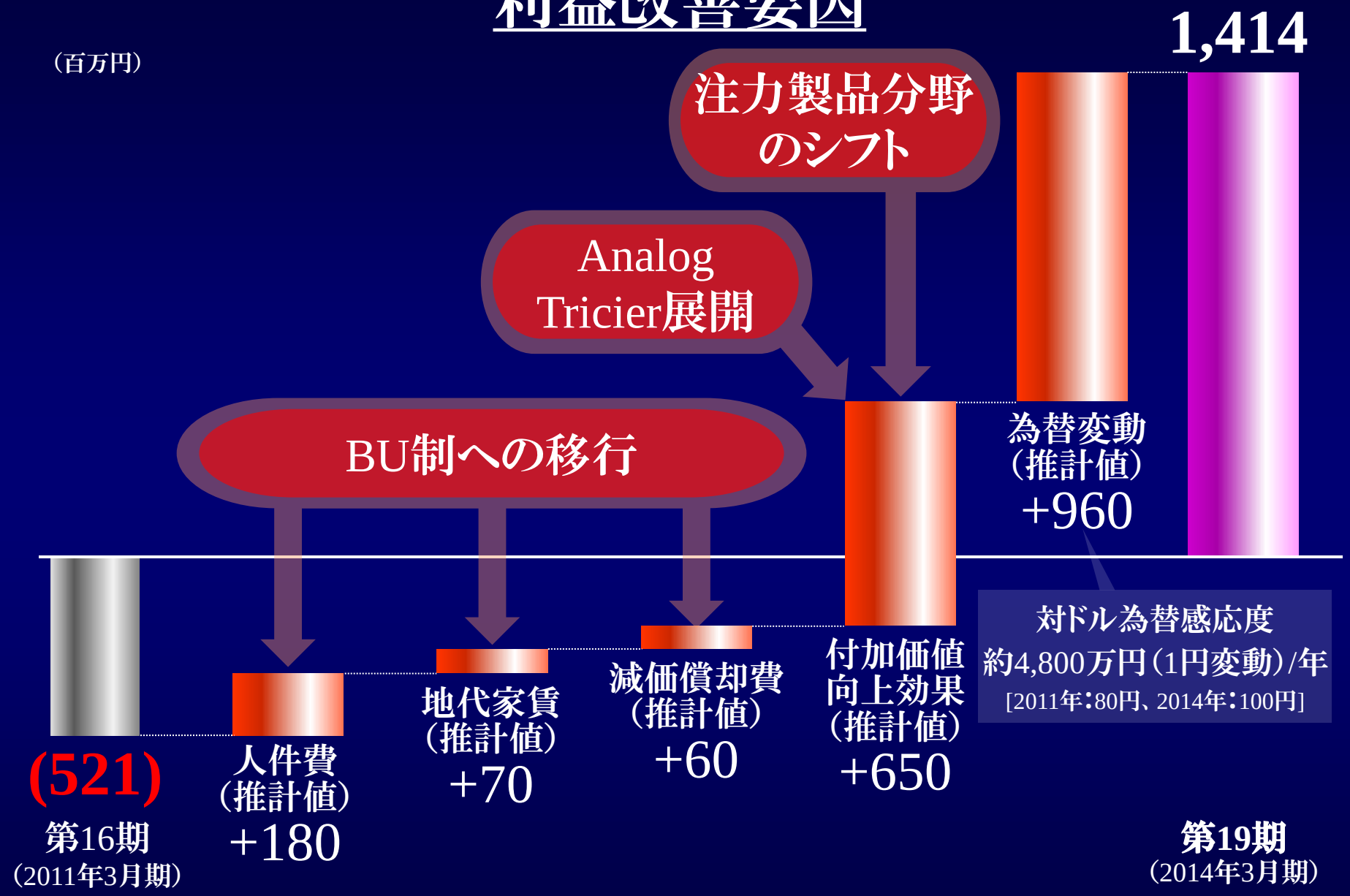
（百万円）



売上と共に、営業利益の回復・拡大を実現しました。

利益改善要因

（百万円）



為替に依存しない利益創出を実現しています。

業績予想の達成率は？

業績予想の達成率

	4/8発表予想	実績	達成超過額	達成率
売上高	百万円 9,270	百万円 9,390	百万円 121	**101.3%**
営業利益	1,408	1,414	6	**100.5%**

ほぼ4/8発表予想の通りの実績となりました。

1 会社概要
事業内容
電源ICへの想い
主力製品群
特徴
提供価値

2 市場動向
アナログ半導体市場規模
アナログ電源IC市場規模
当社の位置付け
競合動向

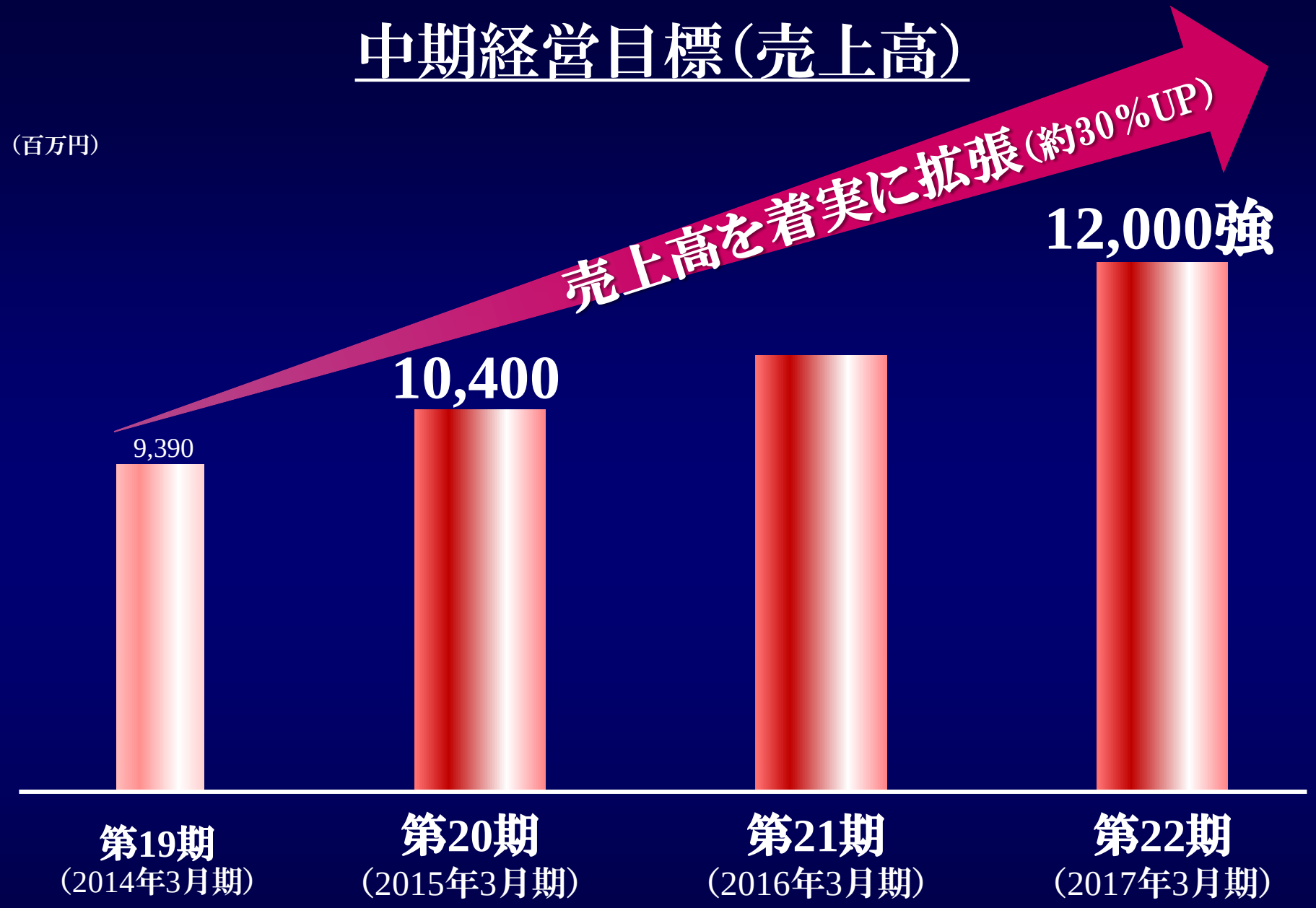
3 第19期の業績
（2014年3月期）
これまでの業績
売上推移
営業利益推移
利益改善要因
業績進捗

4 今後の展望
中期経営目標
ターゲットアプリケーション
新製品開発計画
開発力強化方針
販売力強化方針

5 還元方針
基本方針
配当額と配当性向

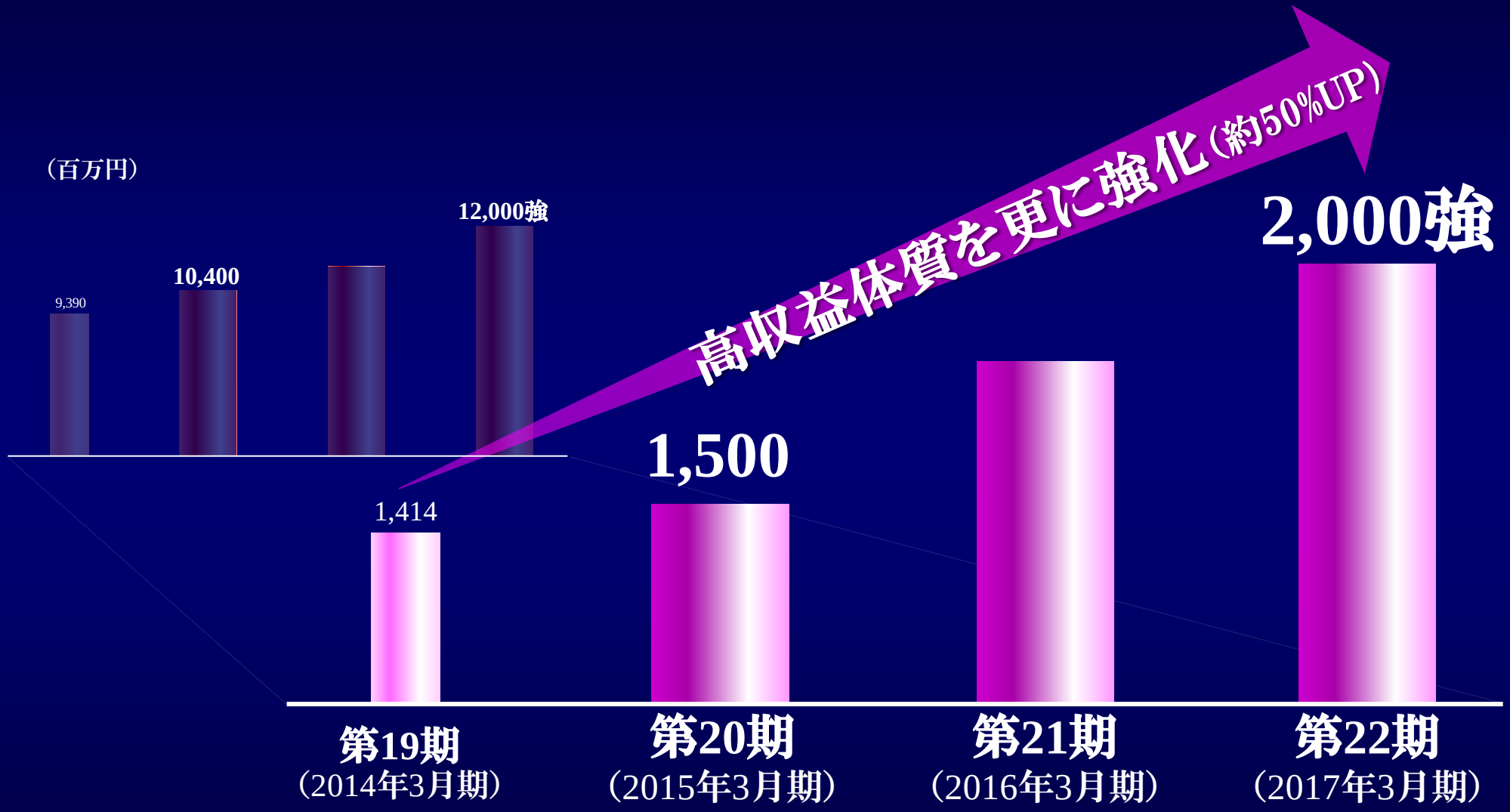
今後の見込みは？

中期経営目標（売上高）



売上を着実に伸ばします。

中期経営目標（営業利益）



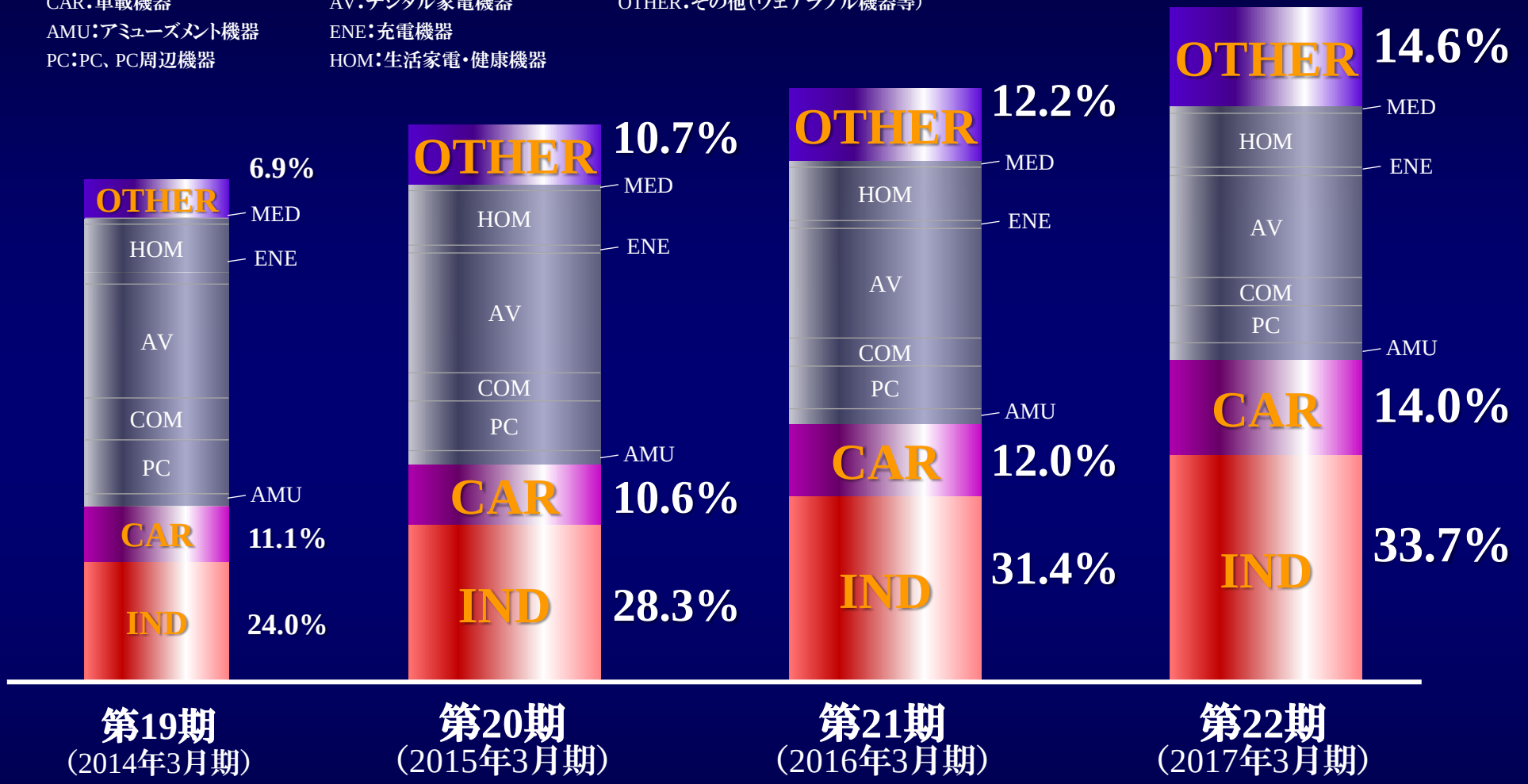
高収益体質を更に強化します。

注力する市場は？

主要アプリケーション別売上拡大計画

（百万円）

IND：産業機器
CAR：車載機器
AMU：アミューズメント機器
PC：PC、PC周辺機器
COM：コミュニケーション機器
AV：デジタル家電機器
ENE：充電機器
HOM：生活家電・健康機器
MED：医療機器
OTHER：その他（ウェアラブル機器等）



第19期（2014年3月期）
第20期（2015年3月期）
第21期（2016年3月期）
第22期（2017年3月期）

産業機器(IND)・車載機器(CAR)・ウェアラブル(OTHER)機器を中心に売上拡大を目指します。

セグメント別売上拡大計画（2014年3月期～2017年3月期）

Europe

百万円

599 → 38%UP

IND
産業機器

OTHERS
ウェアラブル機器等

Japan

百万円

2,767 → 56%UP

IND
産業機器

CAR
車載機器

Asia

百万円

5,517 → 20%UP

IND
産業機器

North America

百万円

505 → 54%UP

IND
産業機器

OTHERS
ウェアラブル機器等

今後の開発製品は？

開発方針 (1/4)

VR

想定
売上貢献額

570
(百万円)

IND

スマートメーター
各種計器類
RFID使用機器
監視カメラ
業務用端末
等

省電力化対応

自己消費電流を極限まで低減させ、
システム機器の省電力化に対応

高密度電源対応

部品の実装面積に制約があるが、高い電圧での
動作が必要な小型機器等に機能集積等で対応

CAR

カーナビ
カーオーディオ
モニタカメラ
コーナーセンサ
キーレス
等

高温動作保証

高温環境下での安定動作要求に対し
125℃環境での動作に対応

カーバッテリー対応

カーバッテリーから供給される12Vの電力に対応
高信頼性を要求される車載規格に対応

開発方針 (2/4)

DC/DC

想定
売上貢献額

630
(百万円)

IND

スマートメーター
各種計器類
RFID使用機器
監視カメラ
業務用端末
等

小型化対応

電源IC自体の小型化の推進と共に、周辺部品の小型化、削減により電源回路を省スペース化

高速動作対応

高効率な電力変換を実現すると共に、
外部変動に高速に対応できる回路制御を実現

CAR

カーナビ
カーオーディオ
モニタカメラ
コーナーセンサ
キーレス
等

高温動作保証

高温環境下での安定動作要求に対し
125℃環境での動作に対応

車載規格対応

車体で使用される機器への搭載を目指して
高信頼性を要求される車載規格に対応

OHTERS

血圧計
血糖値計
活動量計
ウェアラブル端末
等

待機時電力削減

変換効率向上による大気時消費電力を大幅に削減し、システム機器の長時間使用を実現

小型化対応

更なる小型化が求められるウェアラブル端末向けに
周辺部品小型化/削減での省スペース化で対応

開発方針 (3/4)

VD

想定
売上貢献額

130
(百万円)

IND

スマートメーター
各種計器類
RFID使用機器
監視カメラ
業務用端末
等

省電力化対応

自己消費電流を極限まで低減させ、
システム機器の省電力化に対応

電源瞬断・瞬停対応

電源の瞬断・瞬停発生時、機器の安定停止に
必要な機能（リセット信号保持等）を搭載

CAR

カーナビ
カーオーディオ
モニタカメラ
コーナーセンサ
キーレス
等

高温動作保証

高温環境下での安定動作要求に対し
125℃環境での動作に対応

カーバッテリー対応

カーバッテリーから供給される12Vの電力に対応
バッテリー電圧の状態監視に適応

開発方針 (4/4)

XCL

想定
売上貢献額
150
(百万円)

IND

スマートメーター
産業用ロボット
RFID使用機器
監視カメラ
業務用端末
等

高温動作保証

高温環境下での安定動作要求に対し
125℃環境での動作に対応

高密度電源対応

部品の実装面積に制約があるが、高い電圧での
動作が必要な小型機器等に機能集積等で対応

OHTERS

血圧計
血糖値計
活動量計
ウェアラブル端末
等

小型化対応

ウェアラブル端末向けにUSP等の当社独自技術による
小型製品を更に進化

省電力化対応

放熱性の向上による電力損失抑制実現に向けて
USP(*1)等のパッケージ技術の更なる高度化を追求

(*1)Ultra Small Packageの略。TOREX独自開発のパッケージング技術

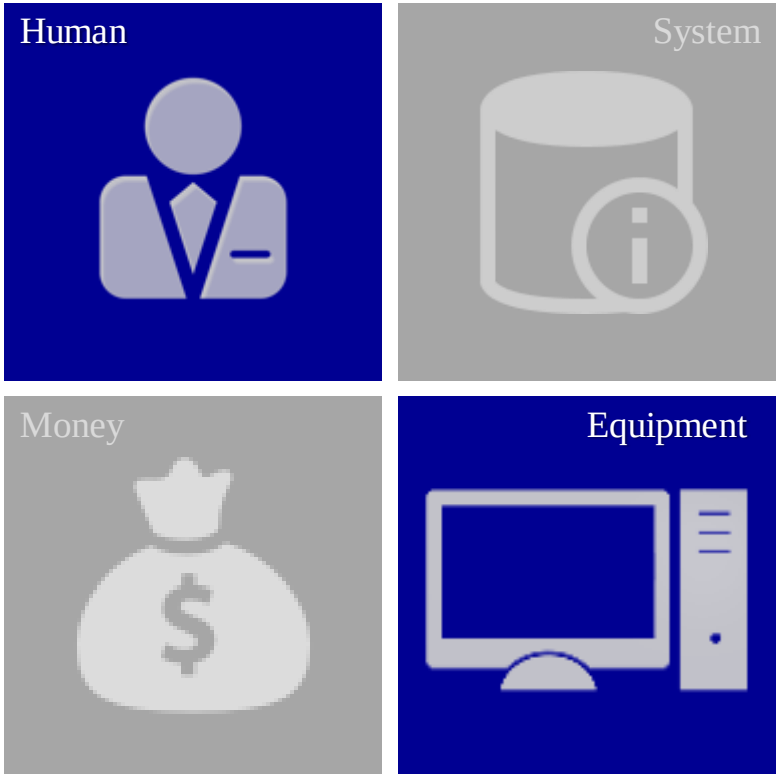
市場要求にどう応え続けていくのか？

開発力強化

人材・設備への投資により、開発力を更に強化していきます。

人材投資

他社の優秀な
電源設計エンジニアの
積極採用



設備投資

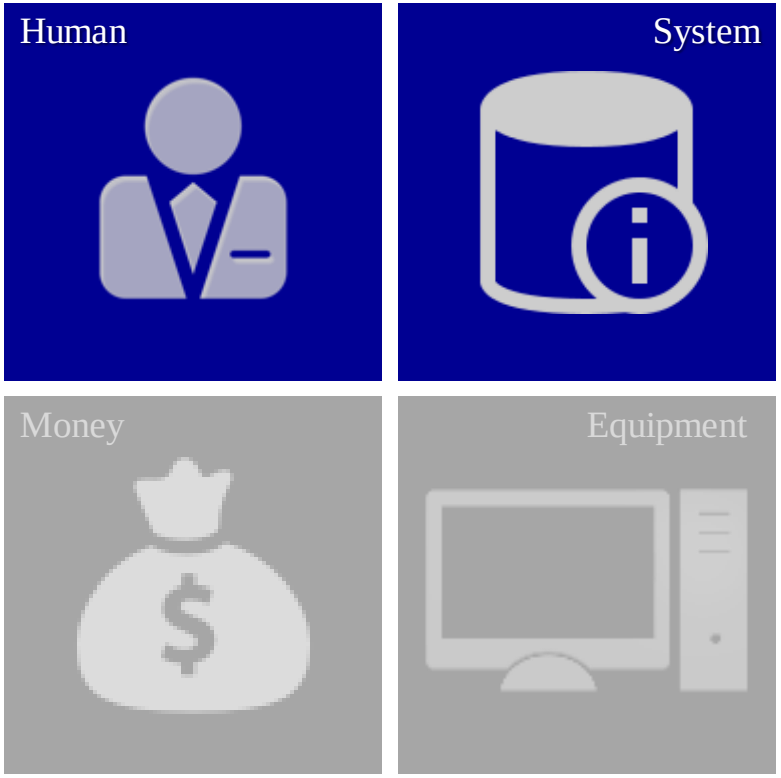
新技術（製造プロセス）に
対応した最新設計ツールの
導入

販売力強化

人材・システムへの投資により、販売力を更に強化していきます。

人材投資

お客さま製品と電源に
通じたFAE(*1)の採用と
海外への配置



システム投資

拠点間の製品・技術情報
共有円滑化に向けた
システムの導入

(*1) Field Application Engineer(技術営業)

1 会社概要
事業内容
電源ICへの想い
主力製品群
特徴
提供価値

2 市場動向
アナログ半導体市場規模
アナログ電源IC市場規模
当社の位置付け
競合動向

3 第19期の業績
（2014年3月期）
これまでの業績
売上推移
営業利益推移
利益改善要因
業績進捗

4 今後の展望
中期経営目標
ターゲットアプリケーション
新製品開発計画
開発力強化方針
販売力強化方針

5 還元方針
基本方針
配当額と配当性向

株主還元方針は？

① 業績に連動した利益還元を目指します

② 配当性向年間20%以上の実現継続を
目指します

③ 中期経営計画の達成による
中期的な企業価値の向上を目指します

配当額は？

	1株当たり配当金		
基準日	第2四半期末	期末	年間
前期実績	0円00銭	40円00銭	40円00銭
配当予想	**50円00銭** （普通配当 40円00銭） （記念配当 10円00銭）	**50円00銭** （普通配当 40円00銭） （記念配当 10円00銭）	**100円00銭** （普通配当 80円00銭） （記念配当 20円00銭）

株主のみなさまへの利益還元に向けて
増配を実施させて頂きます。

最後に
みなさまにお知らせがあります。

IXYS CORPORATIONと相互販売提携契約を締結

相互の強みを生かし、ワールドワイドでの事業機会を相互に拡大

IXYS製品をラインアップに追加

IXYS販売網をTOREX製品拡販に活用

TOREX

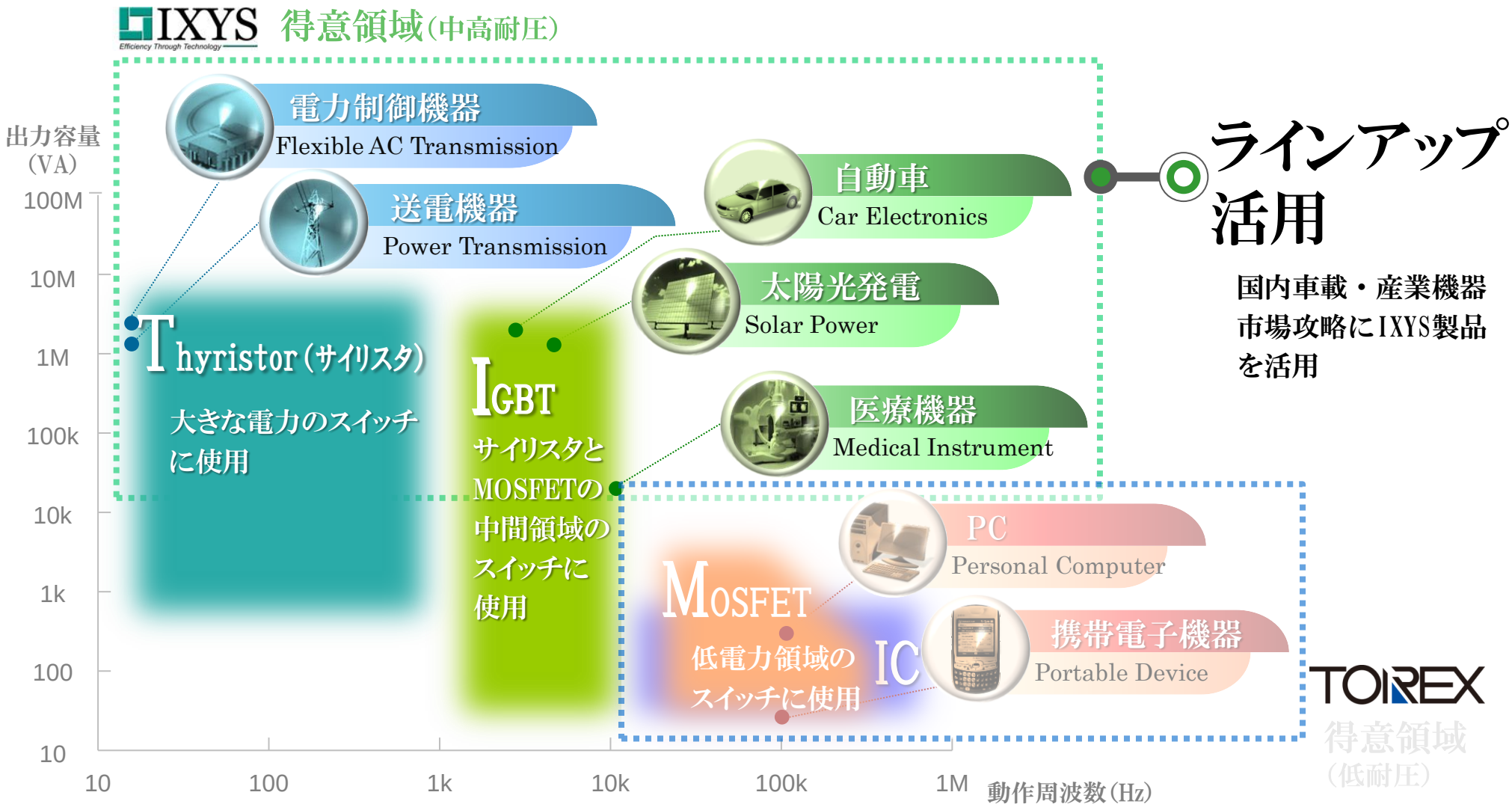
IXYS
Efficiency Through Technology

TOREX製品をラインアップに追加

TOREX販売網をIXYS製品拡販に活用

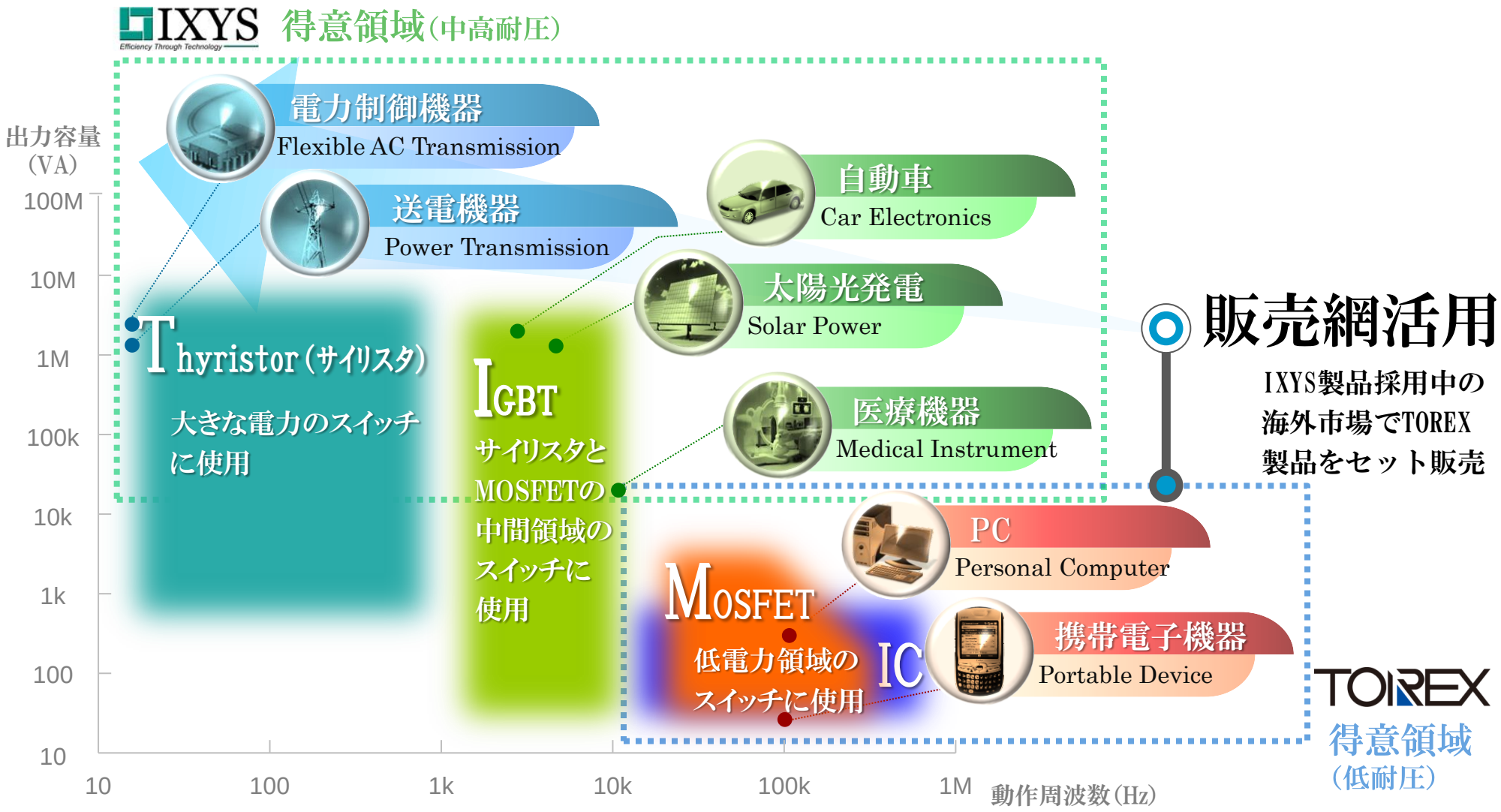
IXYS製品をラインアップに追加

IXYS社の中高耐圧製品を産業機器市場攻略に活用する予定です。



IXYS販売網をTOREX製品拡販に活用

IXYS社の販売チャネルを通じてTOREX製品が販売される予定です。



Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること

速やかな本則市場への移行を目指し、
みなさまのご期待に沿える経営を志向し続けます。

ご清聴
ありがとうございました。
トレックス・セミコンダクター株式会社

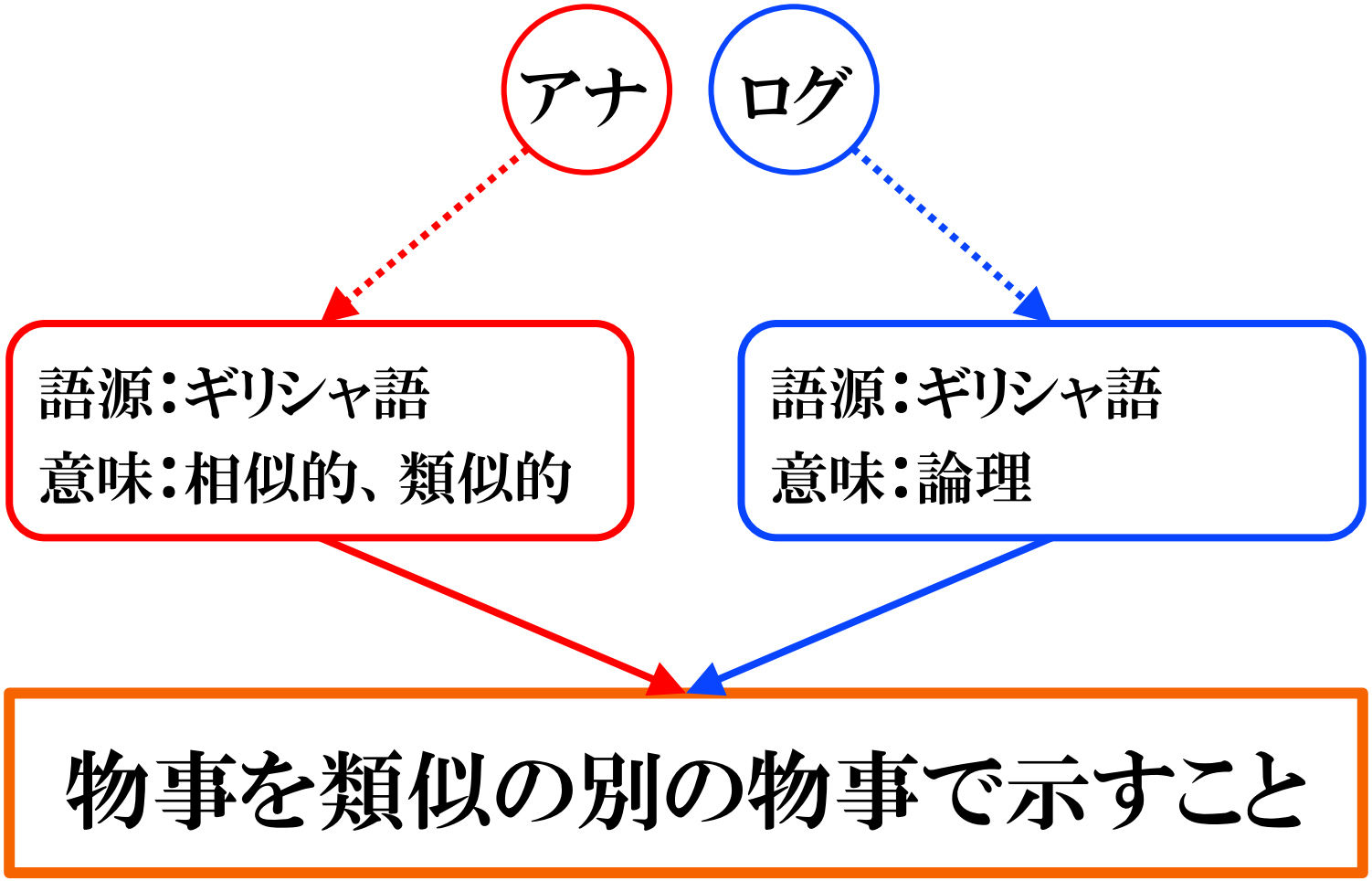
免責事項

本資料に記載された内容は、2014年5月23日現在において
一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、
当社が作成したものです。
本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は
将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。
実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と
大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することは
お控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。

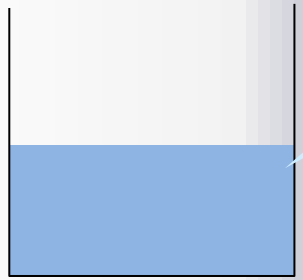
【参考】世界はアナログでできている(1/3)

アナログとは、「身の回りの物事を、自分にとってわかりやすい別の物事に置き換えて示す」という意味を持っています。

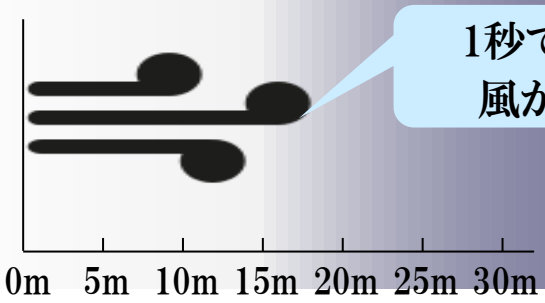


【参考】世界はアナログでできている(2/3)

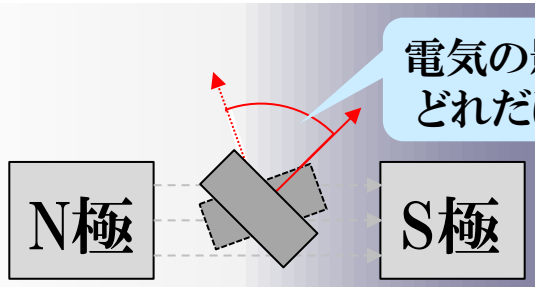
これまで先人たちは、様々な自然現象を自身のわかりやすい事象に
置き換えることで自然の法則を理解してきました。



降水量
(例:20mm)



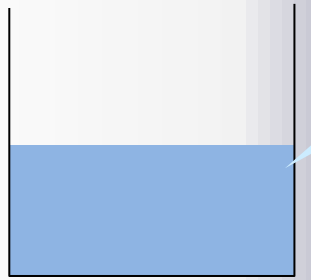
風速
(例:17m/s)



電流
(例:5A)

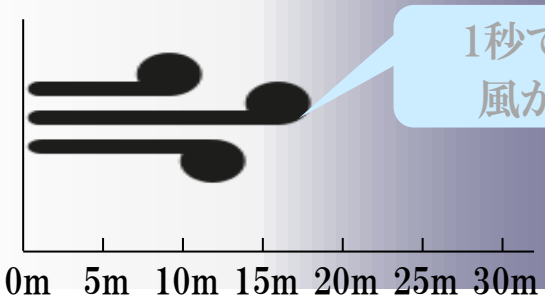
【参考】世界はアナログでできている(3/3)

「デジタル」とは、アナログで示された物事を2進法の数字で示すことです。
デジタル化がどれだけ進んでも、アナログがなくなることは有り得ません。



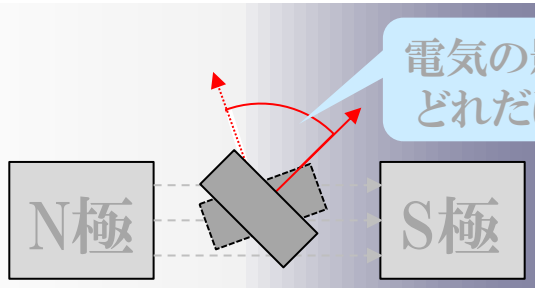
降水量＝20mm

0101111010100101



風速＝17m/s

1111100000100101



電流＝5A

0011111111100000

デジタル化：アナログで示された物事を2進法の数字で置き換え